

**【展覧会】**

# 忘れようとしても思い出せない



ふと目についたのに、次の瞬間には関心が薄れ、残像のように記憶に残った風景。あるいは、理解しようにも難しく、未整理のまま脳の中に仮置きした出来事。私たちは、自分の見聞きしたものに對し、日記をつけたり、思い出話を披露したり、ネット上に呟いたり、言語化して整理していきますが、そのすべてを言語化することなど到底できず、目にした世界の多くを未消化のまま日々を過ごしています。だからきっと私たちの心の底は、言語化の網をするりと抜けて、名前を与えられなかった風景や出来事でいっぱいになっているはずです。

本展では、そのような未消化のままに記憶に沈殿してしまいそうな風景や出来事を、絵画や写真、映像などに留め、表現に昇華させる5名と1組の作者を紹介します。

**会期：2019年6月8日(土)～9月8日(日)**  
**場所：ポダレス・アートミュージアム NO-MA**

**【展覧会の見どころ】**

- 言葉にならない風景や出来事を、絵画や写真、映像で表現する5名と1組の作者を紹介。
- 期間中には、田口ランディ氏のトークイベントをはじめ、視覚文化の研究者による講演、出展者によるワークショップなどの催事を実施。

**【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】**

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部 (ポダレス・アートミュージアムNO-MA)  
担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2  
TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

## 展覧会概要

- タイトル 忘れようとしても思い出せない
- 会 期 2019年6月8日(土)～9月8日(日)
- 会 場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA (滋賀県近江八幡市永原町上16)
- 開催時間 11:00～17:00
- 休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌日)
- 観 覧 料 一般300円(250円) 高大生250円(200円) 中学生以下無料  
※障害のある方と付添者1名無料 ( )内は20名以上の団体料金
- 主 催 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、  
社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～
- 後 援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
- 協 力 一般社団法人近江八幡観光物産協会、酒田あいおい工藤美術館、  
社会福祉法人しみんふくし滋賀、社会福祉法人にじの会、  
社会福祉法人山形県社会福祉事業団、創作ヴィレッジこるり村

## 出展者紹介（広報画像用）

### 岡部亮佑 Okabe Ryosuke

1993年生まれ／東京都

岡部は、ポケットの中に常にボールペンと紙を持ち歩き、特定のモチーフを執拗なまでに繰り返し書いている。岡部の反復は、画面内に同じモチーフを複数描くパターンと、一つのモチーフを部分的に消して描き直すという2つのパターンがある。

赤いコートの女性は度々、岡部の作品に登場する人物だが、常に横を向いている。彼はこの女性の絵を描いては消すことを繰り返している。また、写真を加工した作品もある。修正液で写真の一部を塗り、白くなった部分の上からそこにあった人物の輪郭線をなぞるような絵を描いたり、全く新しいものを描いたりする。



① 「無題（前向きの人）」 2003年頃

### おうみ映像ラボ Omieizo Labo

#### 「8ミリフィルム発掘プロジェクト」

おうみ映像ラボは、滋賀県内の伝統行事や生活記録が収められた映像を上映・発信している。滋賀を題材にした「記録映像」の情報を収集し、滋賀県各地で「情報収集・情報発信、見聞会、遠足、上映会」を行うことで、古来より引き継がれてきた滋賀の美意識や技術と知恵、地域性・共同体のあり方について再認識する、世代を超えたコミュニティの場を創出することを目的として活動する。今回は、滋賀県内で撮影された昭和30～50年代の8ミリフィルムを発掘する「8ミリフィルム発掘プロジェクト」で蒐集された個人記録の映像を上映する。 URL: <http://omieizo-lab.deca.jp/>



② 「家族の風景」（甲賀市）制作年不詳

### 鬼海弘雄 Kikai Hiroh

1945年生まれ／神奈川県

1945年、山形県生まれ。法政大学文学部哲学科卒業後、トラック運転手、遠洋マグロ漁船乗組員、暗室マンなど様々な職業を経て写真家になることを決意。以来、写真表現の追求に身を投じ、1973年より浅草で出会った人々を撮り続けている一連のポートレート群、独自の視点で町を写し出したシリーズで、一躍その名を知られるようになる。このシリーズの制作において、鬼海は、浅草寺の境内に佇み、被写体となる「人」がやってくるのを待つ。40年にわたり、街の片隅から人を待ち続け、ポートレートを取り続けてきた。また、故郷の山形に通底するイメージを長期にわたって追い続けたインドとトルコのシリーズもある。



③ 「数年前から写真をはじめ、たくさんの賞をもらっている81歳の婦人」 1985年

**齋藤勝利 Saito Katsutoshi**
**1954年生まれ／山形県**

齋藤の筆致のスピード感や、広範囲を捉えた独特の構図。支持体に使われたスケッチブックを一枚一枚めくっていき、山の稜線や道路に平行する電線が頁をまたいで続いており、スケッチブック一冊を通して大規模な風景の連続画が成立している。

聾学校において、景色がよく見える遠足のバスの席は齋藤の特等席であった。そして彼はその席でじっくりと車窓から流れる景色を観察した。高度な描写力に加え、驚異的な観察力と記憶力があったからこそ、目視された途端に後方にこぼれていくような車窓から見える刹那的な映像を、彼は生き生きと紙面に描き表すことができたのである。



④ 「無題」 制作年不詳

**田中秀介 Tanaka Shusuke**
**1986年生まれ／大阪府**

田中は、自身のアーティスト・ステートメントでこう語る。

「(前略) ならば自覚の出自を探ろうと外部を見渡す。咄嗟に焦点を合わせれば、誰かがデザインした流線型の照明器具、途方も無い空と奇態な雲、積年の石、偉人の親戚、蜂蜜の流動、打ち捨てられたスウェット等、それらはけたたましく、かつ淡々と代謝の如く立ち代わり存在している。すなわちこれら当然が身边を満たし、また自身もそれに埋没している事に気づく。私の描き出す発端はこの当然を紐解き検証する事から生じる。」

このように、田中は自己の意識を形成するものの一部として、ささいな事象や風景に目を向け、それらの存在を浮き立たせるかのように、絵画として具現化している。

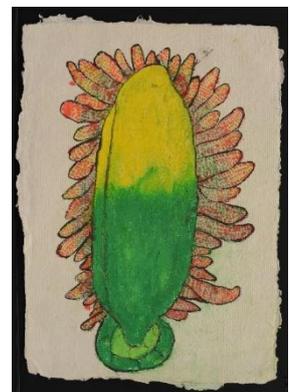


⑤ 「度外視」2019年

**西村一幸 Nishimura Kazuyuki**
**1939年生まれ／滋賀県**

西村は、植物のようなイソギンチャクのような形が綺麗なグラデーションで色付けされた絵を描く。この絵のモチーフとなっているのは、ピラカンサ。ピラカンサは生け垣などにも用いられる低木で、赤い実をつける。

現在は元気で絵も自在に描く西村だが、脳を受傷した過去があり、受傷当初はそうは行かなかったという。新聞を写す等の独自のリハビリにも取り組み、徐々に出来ることが増えていった。ある時、車窓からとある工場前に植栽として植えられていたピラカンサを見た時に、「なんて綺麗なんだろう。いいなあ」と見とれたことから、作品を描くことになったという。実際のピラカンサと西村の描くピラカンサのビジュアルは大きく違うように見える。西村のピラカンサは実際の形状よりも太く、丸みを帯び、色も多彩でより鮮烈な印象を持っている。彼の絵からは、事物の認知における客観性と主観性の差異に関する興味深い示唆を得ることができる。彼の描くピラカンサは、独自のプロセスで形成していった、唯一無二の形であるともいえる。



⑥ 「ピラカンサ」2009年

## 展覧会関連イベント

### 講演会「記憶と記録のはざまに」

20世紀初頭のアマチュア芸術写真や、鉄道写真、時には遺影など、様々な視覚文化について研究を行う佐藤守弘を迎えた講演会。心の中にきざまれた記憶とモノやメディアに遺された記録の不思議な関係を探ります。

日時：6月15日（土）13：30～15：00

講師：佐藤守弘（視覚文化研究者）

会場：奥村家住宅（滋賀県近江八幡市永原町上8）

定員：20名（要予約）

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

### 夏休みお絵描きワークショップ「誰かの誰かを描こう！」

出展作家の田中秀介を迎え、絵を描くワークショップを行います。参加者たちの顔のパーツ一つ一つを組み合わせて、誰かの誰かを組み合わせた人物画を描きます。子どもから大人まで参加できるイベントです。

日時：8月3日（土）13：30～15：30

講師：田中秀介

会場：奥村家住宅（滋賀県近江八幡市永原町上8）

定員：20名（要予約）

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

### トークイベント「他者のまなざし」

本展出展者の鬼海弘雄と交流のある作家の田口ランディを迎え、他者から発せられる強い視線を感じる鬼海の写真作品を起点に、本展についてのトークを展開します。

日時：8月24日（土）13：30～15：00

講師：田口ランディ（作家）

会場：酒游館（滋賀県近江八幡市仲屋町中6）

定員：60名

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

## 地域交流事業 上映会&トーク「あの時 あの場所 私の暮らし 2019」

本展でも紹介する「8ミリフィルム発掘プロジェクト」の上映会と、トークを行います。滋賀県で撮影された8ミリフィルムのプライベートムービーを解説とともに見ながら、地域のかつての日々の情景を映し出します。

日時：8月31日（土）14：00～16：00

出演：おうみ映像ラボ

会場：旧伴家住宅（滋賀県近江八幡市新町3丁目15）

定員：30名（要予約）

### 「8ミリフィルム発掘プロジェクト」のご紹介

実施主体：おうみ映像ラボ（本展出展者）

出展者のおうみ映像ラボは、「8ミリフィルム発掘プロジェクト」と題し、滋賀県内で撮影された昭和30～50年代の8ミリフィルムを発掘されています。

本プロジェクトにより発掘されたフィルムは、ご自宅での試写や地域での上映会などで鑑賞されています。

ご興味ある方は、下記にご連絡ください。

おうみ映像ラボ連絡先

Tel 080-9603-5680

Mail [omieizo\\_lab@yahoo.co.jp](mailto:omieizo_lab@yahoo.co.jp)

URL <http://omieizo-lab.deca.jp/8mm.html>

なお、本展期間中に発掘されたフィルムは、イベント【地域交流事業 上映会&トーク「あの時 あの場所 私の暮らし 2019」】でも上映させていただきたいと考えております。



滋賀県内で撮影された昭和30～50年代の  
**8ミリフィルムを探しています！**  
みなさんのご家庭に  
8ミリフィルムは残っていませんか？

8ミリフィルムを上映するまで

- ① おうみ映像ラボまでお問い合わせ。  
映像の内容がわからなくても、  
お気軽にお問い合わせください！
- ② ご提供いただく8ミリフィルムを撮影する。
- ③ ご覧いただいた方のみ、  
みんなで寄り合う上映会で鑑賞します。

お問い合わせは、おうみ映像ラボまで  
tel 080-9603-5680  
mail [omieizo\\_lab@yahoo.co.jp](mailto:omieizo_lab@yahoo.co.jp)

おうみ映像ラボの情報はここから！  
WEB <http://omieizo-lab.deca.jp/>  
上映会と映像・写真の発信

facebook [www.facebook.com/omieizo\\_lab](https://www.facebook.com/omieizo_lab)  
twitter [https://twitter.com/omieizo\\_lab](https://twitter.com/omieizo_lab)

おうみ映像ラボ

## 常設ワークショップ「NO-MAフォトジェニック！（かっこいいタイトル付き）」

会期中、NO-MA館内もしくは周辺で芸術写真を撮ってみましょう。風景でも人物でも、対象は問いません。かっこいいタイトルも必須です。写真はNO-MA館内での掲示やNO-MAウェブサイト、SNSにタイトルと一緒にアップします。

日時：開催期間中

# 忘れようとしても思い出せない

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部  
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛  
FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者名(大西暢夫 or Onishi Nobuo)を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

媒体名：

『 \_\_\_\_\_ 』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー  
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 \_\_\_\_\_ )

ご住所：

お電話番号：

FAX：

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	①岡部 亮佑 「無題(前向きの人)」 2003年頃
<input type="checkbox"/>	②おうみ映像ラボ 8ミリフィルム発掘プロジェクト「家族の風景」(甲賀市) 制作年不詳
<input type="checkbox"/>	③鬼海 弘雄 「数年前から写真をはじめ、たくさんの賞をもらっている81歳の婦人」1985年
<input type="checkbox"/>	④齋藤 勝利 「無題」 制作年不詳
<input type="checkbox"/>	⑤田中 秀介 「度外視」 2019年
<input type="checkbox"/>	⑥西村 一幸 「ピラカンサ」 2009年

## 【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の2

TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp